451 上部消化管手術における dual scanの臨床的意義

国安芳夫，東　静香，新尾泰男，河窪雅宏，
平田　貴，奥畑好孝　宮川国久，安河内　浩，
筧　弘毅（帝京大　放）
高田忠敬，内山勝弘，安田秀喜，長谷川　浩，
四方淳一（帝京大　1外）
三本重治，安田三弥，増田英明（横浜市民病院）

上部消化管手術，特に胆道再建術においては種々の術式が工夫されている。術式としてはより生理的な再建法が望まれ，各術式間の比較評価が必要となってくる。

今回我々は，dual scan methodを用い胆道，消化管の機能面からの術式の評価を行なったのでその結果について報告する。対象は内視鏡的乳頭括約筋切開(EST)胆摘後症例，胆管損傷例などのほかに胆管空腸Roux-Y吻合例などの良性胆道疾患に対する胆道再建症例37例，更に膵頭十二指腸切開術を受けた24例など計91例である。評価には① gastric emptying ② hepatogram による肝機能　③挙上空腸の運動　④胆汁と食物との混和開始時間⑤腸管内 activity のtransition　⑥胆道及び胃への逆流の有無等の諸項目について検討した。

452 下血を主訴とし核医学検査が有用であった4症例

日野　恵，才木康彦，鄭　新都，山口晴二，
伊藤秀臣，羽渕洋子，池窪勝治（神戸中央市民・核）

今回我々は下血を主訴とし，核医学検査が有用であった4例を経験したので報告する。〔症例1〕30歳男性。消化管透視，内視鏡検査にて異常なく，$^{99m}TcO_4^-$ にて下腹部に異常集積があり，手術にて小腸の重複腸管と診断された。〔症例2〕45歳女性。血管造影にて横行結腸，S状結腸の動静脈奇型が確認されたが，入院中に下血があり，^{99m}Tc-RBC にて，S状結腸よりの出血と診断された。〔症例3〕61歳男性。小腸透視にてメッケル憩室が疑われたが，$^{99m}TcO_4^-$ にて異常集積なく，下腹部の hyper vascular tumor が疑われた。手術にて小腸の leiomyosarcoma が確認された。〔症例4〕64歳男性。入院中に大量の下血を来したが，出血部位の診断が困難であり，^{99m}Tc-RBC にてS状結腸よりの出血と診断した。手術により虚血性腸炎よりの出血が確認された。急性消化管出血においては，迅速かつ正確な出血巣の診断が必要とされるが，各種の検査が無効な場合が少なくない。このような場合，核医学検査は非侵襲的であり，臨床的にも有用な情報の得られることが多く，今後さらに積極的に行うべきものであると思われる。

Presented by Medical*Online